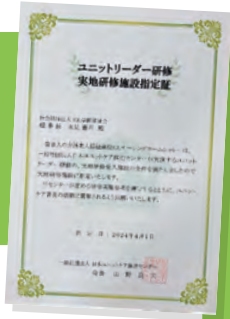




全国から注目される介護施設へ！

「ユニットリーダー研修」実地研修施設に指定



IGLナーシングホームシャレーが「ユニットリーダー研修」実地研修施設に指定 全国から年間120名を研修受け入れ

介護老人福祉施設IGLナーシングホームシャレーが、全国のユニット型特別養護老人ホームに勤務するリーダーやリーダー候補者を対象にした「ユニットリーダー研修」の実地研修施設に指定されました(2024年4月)。

現在、月2回、1回あたり5名、4日間の研修を受け入れており、年間約120名の研修受講者を迎えています。実践的なケアの現場として、高い評価を得ています。



利用者一人ひとりに向き合う「24Hシート」

ナーシングホームシャレーの最大の特徴は、「24Hシート」と呼ばれる生活記録システムに基づく個別ケアの徹底です。起床時間、排泄のリズム、食事やお茶の好みまで詳細にアセスメントし、支援計画に反映。

排泄介助の見直しにより「にoirがない施設」として注目され、要介護3以上の90名中31名がおむつを外す成果もあり、利用者さまの尊厳を守り、自立支援につながっています。



▲ 24Hシート



個別ケアを徹底した実践で、“介護は楽しい”職場づくりにも成功



取り組みの始まりは、逆境から

2021年、コロナ禍の中でチャレンジを決断。当初は認定に必要な100項目のうち半分しか満たせませんでした。苦悩や戸惑いを乗り越え、職員全体で理念を共有し続けた結果、2024年度に認定を取得しました。

胸を張れる職場に

「介護は楽しい」と実感できる職場づくりを実現。職員の定着率向上やコスト削減などの成果も生まれ、ケアの質の向上だけでなく、職員のモチベーションを高める先進的なモデルとして注目されていくことでしょう。



ケアの価値観を変える現場力

ナーシングホームシャレーでは、「業務」ではなく「暮らしを支えるケア」を理念とし、業務マニュアルは存在せず、ケアマニュアルのみを運用しています。

「～しましょう」ではなく「～しますか?」という言葉づかいを通して自己決定を尊重。職員は「人を変えるのではなく、自分の行動を変える」を合言葉に個別支援へ移行。利用者さまの笑顔や会話が増えるなど、穏やかな空気が生まれています。



先生ー！

知っておくと役に立つ情報を発信！

頻尿



IGL鍼灸マッサージ治療院
鍼灸師 山本 竜正 先生



頻尿を引き起こす疾患

- 過活動膀胱**…膀胱はある程度尿が溜まると膀胱の壁が感知してトイレに行きたくなるようになっていますが、十分尿が溜まる前にトイレに行きたくなるのが過活動膀胱です。
- 前立腺肥大**…前立腺肥大症は男性ホルモンのはたらきが衰え始める30歳代から前立腺が大きくなり始め加齢とともに肥大して尿道を圧迫し頻尿以外にもさまざまな症状が起こります。また、肥大する前立腺の大きさや形には個人差があります。
- 膀胱炎**…膀胱炎は細菌やウイルスによる感染などで膀胱の粘膜に炎症がおこる病気で、炎症による刺激で膀胱の神経が過敏になり頻尿が起こります。他にも排尿時の痛み、残尿感、血尿、尿がにごる、膀胱のあたりの不快感などをともなうことがあります。

予防

- 生活習慣の改善**…水分を摂りすぎている場合は適切な量にすること、水分はカフェインを含まないものに変えるなどして予防・改善をしましょう。アルコールも利尿効果があり夜に飲酒すると睡眠中の排尿が増えます。
- 体を冷やさない**…体を冷やさないようにすることも大切です。できるだけ常温の飲み物を摂るようにします。夏でもシャワーだけで済ませるのではなく、足湯や湯船にゆっくりとつかることをおすすめします。

そのほかにも、便秘があると排尿しきれずに残尿量が増えて頻尿の原因になることがあります。食事や運動などを見直して便秘の解消を図りましょう。

病院・医療機関の診断を受ける

頻尿や多尿を引き起こす病気が隠れている可能性も否定できません。まずは、かかりつけ医や医療機関で頻尿や多尿、それにともなう症状について相談し 必要があれば泌尿器科の専門医を紹介してもらいましょう。

頻尿のツボでは中極穴、膀胱俞穴、脾俞穴、腎俞穴、三陰交穴などに施術をします。当治療院では頻尿の改善に日々取り組んでいます。

IGL鍼灸マッサージ治療院 〒731-0154 広島市安佐南区上安6丁目31-1 TEL082-830-3420

教会から「愛の手紙」



人生の道しるべ ～聖書の御言葉

美鈴が丘の教会では、木曜日の午後、サムエルこどもの園の園児さんや小学生たち(卒園児さんです)が、教会学校に15人ぐらい集まります。公立の小学校に上がると、もちろん礼拝はありませんので、教会学校に来て、大好きなお友だちと一緒に賛美歌を歌い、手を胸に当てて主の祈りを唱えることが、何よりも嬉しいのです。私自身、生まれた時から耳が聞こえない難聴のハンディがありますが、それでも与えられた自分の人生に迷いがなく、聖書に記された神さまの御言葉に導かれ続けて来たこの喜びを、幼な子たちにも伝えたい気持ちでいっぱいです。

私が高校生の時、イースター(キリストの復活を記念する)礼拝で、アメリカの宣教師の先生が、手話でこのような賛美を歌ってくださいました。「大波のような神の愛が、私の胸に寄せてくるよ。漕ぎ出せ、漕ぎ出せ、世の海原へ。先立つ主イエスに身を委ねて。」

私たちの人生に先立って導いてくださる救い主イエスさまが、いつもそばにいてくださいます。それまでは、自分を中心として物事を見たり考えたりしてきましたが、イエスさまを救い主と信じ、聖書

広島福音教会副牧師 加藤 久美子先生



を読むようになってからは、神さまの視点を通して物事を見る者へと変えられました。そして、私は誰かのためにお役に立つ存在にされていることに気がきました。

今、私はサムエルこども園や教会で、私の母言語である手話を使いながら、聴覚に障がいのあるお子さんや、大人の方たちに通訳をしています。特に、耳が聞こえない子どもたちの支援は、耳からの情報を目で見る情報(手話)に置き換えて伝えることが大切です。そして、それ以上に大切なのは、その子たちが抱える不安や心情を言語化して、聞こえる親に伝えることです。健聴者と聴覚障がい者の橋渡しの役目が手話通訳者。私はその役目を担う者とさせていただいていることを、心から神さまに感謝しています。

神さまの御言葉は私たちの人生の道しるべとなるのです。「あなたのみことばは、わが足のともしび、わが道の光です」(詩篇119篇105節)。

